

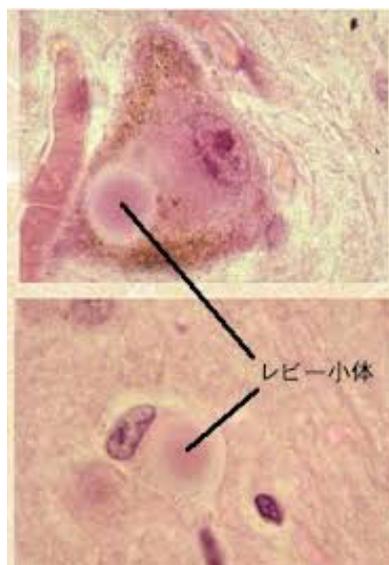
「レビー小体型認知症」とは？

「幻視」「大きな寝言」
「転びやすい」「うつ」……。
それってレビー小体型認知症かも
しれません!

レビー小体とは？

レビー小体 (Lewy body) とは、中枢および末梢の神経細胞の内部に見られる異常な球状の構造物 (封入体) です。ドイツ生まれの神経学者であるフレデリック・レビー (Frederic H. Lewy) によって初めて発見されました。その命名は、フランスのトレティアコフ (Tretiakoff C) によるものです。染色すると封入体は円形、好酸性 (*) で、中心部の芯は濃く染まり周辺部の暈輪 (うんりん) は明るく見えます。

* 一般的なヘマトキシリン・エオジン染色で、エオジンにより”赤く”染まります。(図 上)



パーキンソン病の場合には、「レビー小体」が脳の下の方にある脳幹の「中脳黒質」に出るのに対し、「レビー小体型認知症」の場合は、大脳皮質全体に出現します。

レビー小体型認知症 (英: **Dementia with Lewy Bodies ; DLB**) は1995年の第1回 国際ワークショップで提案された新しい変性性認知症のひとつです。

日本の小阪憲司らが提唱した「びまん性レビー小体病」を基本としています。日本では「アルツハイマー型認知症」や「脳血管性認知症」と並び三大認知症と呼ばれています。進行性の認知機能障害に加えて、特有の精神症状とパーキンソン症候群を示す変性性認知症とされています。

「認知症」を伴うパーキンソン病のほとんどは病理学的に見ると **DLB** とされています。

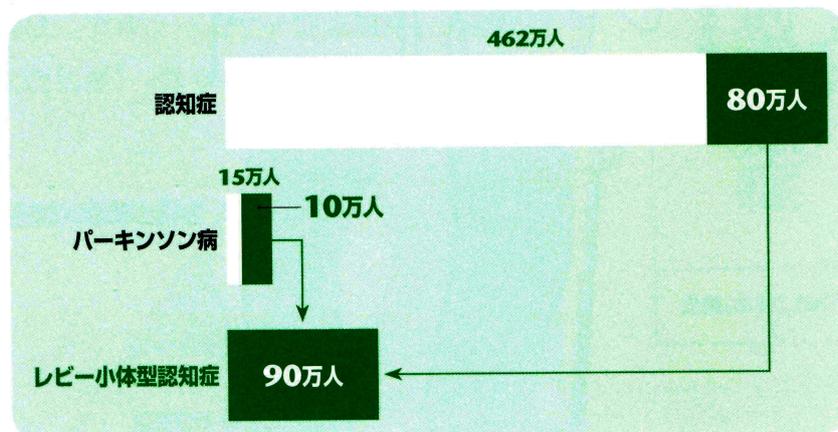
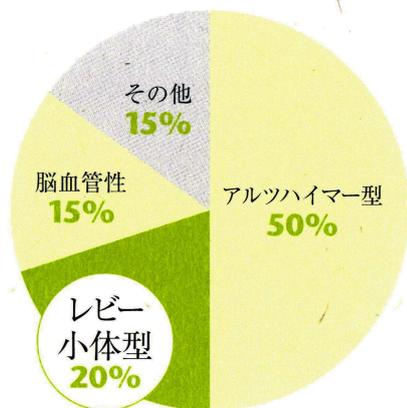
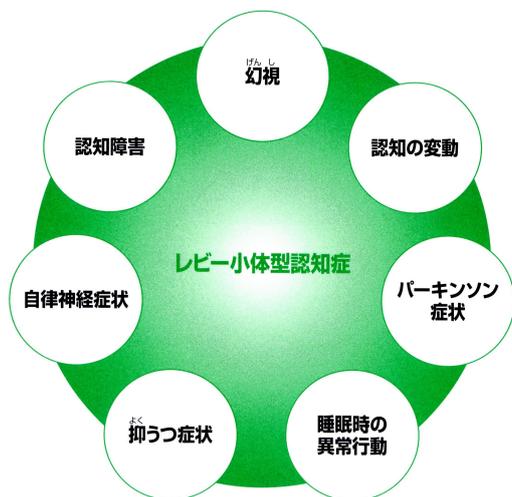


図 上: DLBの人が現在わが国でどれくらいいるか試算すると、軽度を含めた認知症の患者さんの約462万人の約20%の約80万人。さらに約15万人のパーキンソン病の患者さんのうち約70%が認知症を伴っているとすると約10万人がDLBと推計されます。したがってわが国でDLBの人は総計で約90万人いることとなります。



DLBは、認知症の一種ですから、物忘れや理解力・判断力の低下などをきたすことになります。

DLB患者の特徴(図左)として、以下のような症状が現れます。

ただし、初期から中期にかけても、もの忘れはあまり目立たず、幻視や認知の変動、パーキンソン症状、睡眠時の異常行動などの特徴的な症状があらわれます。

幻視

特徴的な症状の一つに「幻視」があります。「幻視」の原因は、脳の後ろ側(後頭葉)の視覚に関係するところの障害でおこる症状です。とても生々しい幻視がみえ、等身大の人物

群などが登場するとされています。

例えば、「座敷で3人の子供たちが走り回っている」、「ネズミが床を動き回っている」、「こどもが部屋で遊んでいる」などとその内容はとても具体的です。床にいる虫をつまもうとする動作、何もないところに話しかけている姿で気付かれることもあります。本人の感情は不安・恐怖感、無関心、楽しいなどの反応があります。

「幻視」と異なりますが、人形を女の子と見間違えたりする「誤認」もあります。



日によって症状に変動がある。

日時間によって、頭がはっきりしている状態とぼーとしている状態が入れ替わるといった、症状に大きな波があるのも特徴です。「認知の変動」といわれ、正常に思えるときと様子がおかしいときが繰り返されます。

パーキンソン症状がみられる。

動作が遅くなったり、前かがみの姿勢で小刻みに歩いたり、筋肉がこわばったりするようになります。表情が乏しくなることもあります。進行すると転倒の危険性が増大します。

多くの患者さんでは、経過を追ってゆくとパーキンソン病の症状が出現してくるため、途中でレビー小体病と気づかれる場合が少なくありません。

睡眠時の異常行動

睡眠中に大きな声でつぶやいたり、奇声をあげたり、怒ったり、怖がったり、暴れたりといった異常な行動をとることもあります。夢をみやすい「レム睡眠」のときにあらわれ、「レム睡眠行動異常」ともいわれます。

うつ状態

病気の初期に現れやすいものに「うつ状態」があります。気分が沈み悲観的になり、意欲が低下する症状です。「めまいがする」「ふらふらする」といった、身体の不調を訴える場合もあります。

自律神経症状

自律神経は、血圧体温、内臓の働きなどを調整する神経です。活動する神経である交感神経と、休む神経の副交感神経の2つがうまく切り替わらず、さまざまな身体的不調をきたします。具体的には、起立性低血圧(立ちくらみ)、便秘、多汗、尿失禁があります。

図は、「NHKハート・フォーラム」、「役に立つ薬の情報～専門薬学」ホームページ、「知っていますか? レビー小体型認知症」小坂憲司(著) レビー小体型認知症家族を支える会(編集) <メディカ出版>から引用しました。

この「診療所だより」や診療についての御意見・ご要望などをお気軽にお寄せ下さい。これからの参考にさせていただきます。

編集・発行： 勝山諄亮

勝山診療所

〒639-2216 奈良県御所市343番地の4 (御国通り2丁目)